

第5回 全日本 学生フォーミュラ大会参戦記

上智大学 Sophia Racing
2007年度プロジェクトリーダー 泉 隼太

思い返せば、私の学生時代は学生フォーミュラと共に歩んできた学生生活だったと感じている。第1回日本大会総合優勝から第4回総合優勝そして、第5回総合優勝と最高の形で学生フォーミュラ活動を体験することが出来た。特に、第5回大会は史上初の2連覇のかかった大会となり、周りからの期待や前年度優勝校としての重圧の中で、昨年度よりさらにチーム一丸となって参戦した大会になった。

日本大会に参戦したSR06の車両開発においては、「基本に忠実な設計」、「軽量」、「高い商品性」の3つを設計コンセプトに掲げ、SR05の熟成を念頭において設計を行った。

パワートレインではエンジントルクの向上と信頼性の強化を行った。シャシーにおいても各種軽量化、サスペンションジオメトリの変更、フレームの簡略化および剛性の向上、前後重量バランスの再検討等を行い、車両運動性能を進化させた。またエアロダイナミクスにも力を注ぎ、様々な空力解析を行い、アンダーパネルを採用することによりダウンフォースを得ることができるようになった。

SR06は7月に日本代表校としてイギリス大会に参加するも、車両熟成の甘さからトラブルを抱えながらの走行となり、悔し涙を飲んだ。そのためイギリス大会後、9月の日本大会に向け練習走行を重ね熟成を重ねた上で日本大会に臨んだ。

第5回大会には過去最大の59チームが参加し、エコパに到着した私は“再びこの決戦の地に戻ってきた”と感じていた。静的イベントにおいては、プレゼンテーション1位、デザイン1位、コスト28位と車両の価格に課題を残したものの着実にポイントを重ねた。車検も無事に通過し、動的イベントのアクセラレーション、スキッドパッドではそれぞれ7位、2位につけ、オートクロスでは2年連続首位の座を守ることが出来た。そして、最終種目のエンデュランスに向け、これまでのポイントを集計し他チームとの差を把握することで、ドライバーへの精神的プレッシャーを軽減させ、安定した走行を行いすべての競技を終えた。

表彰式では、これまで以上に多くの賞を受賞しチームメンバー1人1人の協力がなければここまでチームの力は高められなかったと感じている。2年連続日本大会総合優勝を達成し、最後には、再度男涙を流したが、今年度の優勝は本当にチーム全員で勝ち取った去年とはまた質の違う優勝であったと感じている。

僕がチームリーダーとして突っ走ってきた2年間は長いようでとても短い2年間だった。ここまで一生懸命活動することができたのも、FAやチームメンバーそしてチームを支えていただいたスポンサーや多くの関係者の方々無しでは活動することはできなかったと感じている。

多くの方々に感謝すると共に、今後もこの実りある学生フォーミュラ大会がより発展すること祈っている。

